

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	教育委員会		
	課名	学校教育課		
	係名	施設係		
	記入者		電話(内線)	625

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	中学校施設整備事業	(3) 事業の 優先度	A
(4) 総合計画での位置づけ		(6) 事業主体		市	
① 事業の区分	主要事業	(7) 予算・ 財源等 の種別		事業の性質	普通建設事業費(ハード事業)
② 施策コード	41201 (総合計画掲載 ^ハ - ^ジ 115 ^ハ - ^ジ)	会計区分	一般会計		
基本目標(政策)	4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文化)	財源区分	市単独		
基本施策	4-1生きる力を育む教育環境づくり(学校教育)	予算科目	款 10	項 3	目 3
施策	②安心して学べる学校づくりの推進	予算書上の 事業名称	中学校施設整備事業費 (予算書 165 ^ハ - ^ジ に掲載)		
施策内容	1学校施設・設備の充実	(8) 事務分類			
(5) 事業期間	開始 昭和 29 年 月から	根拠法令			
	終了 年 月まで (力年)				

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
生徒及び教職員	生徒が安全で快適に学ぶことができる教育環境の整備を図る。 教職員が児童生徒を指導するうえで、良好な環境を整備する。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
○改修工事 ・トイレ改修(和便器を洋便器, 床を乾式へ改修等) ・ボイラー室改修(使用予定のない設備を撤去し, 物置・保管庫として活用) ・受変電設備改修(耐用年数を考慮し順次交換) ・結城中学校武道場屋根改修(H28) ・結城中学校体育館大規模改造(避難所としての機能を果たすため, 老朽箇所を中心に改修を行う。H29,30) ・結城南中学校屋外プール改修(プール授業における生徒の安全確保のため, 老朽箇所の改修を行う)	
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境, 市民ニーズ等)や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応	
学校施設大規模改造(長寿命化):学校からの要望件数が校舎の老朽化とともに年々増加し, 教育環境の改善(清潔・衛生的なトイレやエアコン整備, 子どもが安心・安全に利用できる施設など)が求められている。	

3. 事業コスト

行政評価 実施計画	実績内容の評価	検討・改善	検討・改善内容を反映
● 予算内訳	実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)
事業内容	27 年度	28 年度	29 年度 30 年度 31 年度
(1) 事務事業費の コスト	委託料	292	
	工事請負費	46,401	20,744
	・トイレ整備事業(H33,34)		
	・結城中体育館大規模改修		
	合計	46,693	20,744
財源	国庫支出金 (千円)		
	県支出金 (千円)	5,648	
	地方債 (千円)		14,300
	その他特定財源 (千円)		
	一般財源 (千円)	41,045	6,444
	合計 (千円)	46,693	20,744
補助・起債制度名	再生可能エネルギー導入促進事業費補助金	茨城県市町村振興資金	

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）							
指標名		目標値					
		実績(見込)値					
指標名		目標値					
		実績(見込)値					
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）							
指標名		目標値					
		実績(見込)値					
		達成率	%	%			
指標名		目標値					
		実績(見込)値					
		達成率	%	%			

5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	教育環境の整備のために必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	行政以外には実施できない事業である。
	手段の妥当性	A	妥当である	現在の手段が一般的である。
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	施設の老朽化が進むにつれ一件一件の工事の規模が大きくなる傾向にあり、工事に係る準備や設計、学校側との連絡調整に人員や時間を要する。
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	改善要求のある施設について必要な対応ができています。
有効性	成果の向上	A	上がっている	緊急性・重要性の高い案件を優先的に整備し、一定の効果は得られている。
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	突発的な改修や事業費の増加により、計画の見直しがある。

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

学校施設の長寿命化を図ることを念頭に計画的実施が必要である。計画立案における優先順位付けにおいては、学校規模の適正化についても考慮する必要がある。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

平成28年度中に学校施設の改修計画を策定する。改修計画に基づき実施設計、改修工事を実施し、優先度の高い学校を順次整備する。限られた財源で無駄なく事業が実施できるよう学校規模の適正化についても検討する。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	拡充 (人・モノ・カネ等の拡充)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	拡充 (人・モノ・カネ等の拡充)	耐震化事業が平成28年度に完了するため、今後は学校施設長寿命化を主体として事業を展開する。(結城中学校、結城南中学校は、敷地、施設、建物数が多く老朽化も激しい)
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。